

だい 第36回宮前地区青少年作品展 『書道の部』 講評 こうひょう

作品展の開催、おめでとうございます。みなさんの素敵な作品を見させていただき、力強いパワーと元気が感じました。どの作品からも課題の言葉に対する思いを込めて一文字一文字丁寧に書こうとする気持ちが伝わってきました。

低学年のみなさんの課題文字は「あいさつ」でした。あいさつは、人と人をつなぐ大切な言葉です。ひらがなの特性である曲線を意識して書くことは、大変難しいのですが、柔らかさや丸みのある文字が書けていました。「あ」は筆を滑らかに動かして字形を整えて書くことが難しかったと思いますが、丁寧にしっかりと書くことができていました。文字を書く上で大切にしたい「とめ」「はね」「はらい」など、基本をしっかりとおさえて書かれていました。どの作品も紙いっぱいに書かれていて、元気なあいさつが聞こえてくるようでした。

中学年のみなさんは、「思いやり」という言葉でした。友達や家族、大切にしているものなど、様々なものに対して思いやる心をもってかかわっていきこうとする温かな思いが文字から伝わってくるようでした。漢字とひらがなの字配りと文字の中心をそろえて書くことが難しかったと思いますが、点画のつながりを意識して書かれている作品がとても多かったです。紙全体を見ながら作品を書くことで、字の中心がずれることなく書くことができるようになりますと思います。

高学年のみなさんは「世界の友」という課題でした。さすが高学年と感じられるような作品ばかりでした。今まで積み重ねてきた力が発揮されていて、とても見応えがありました。特に「界」「友」の右はらいは、しっかりと意識して、丁寧に筆を運んでいることが伝わってきました。字形も整っており、文字の組立てがしっかりしています。「友」という文字がまるで「世界」を支えているようです。皆さんがこれからの世界を担い豊かなものにしてほしいと思いました。

中学生の作品は、ぜひ小学生のみなさんにも見ていただきたいです。「創造の喜び」の課題文字は、まさに楷書から行書へと表現に幅が生まれるこの時期にぴったりの言葉だと感じました。全体の構成、統一感が見事です。中学生は、文字間の調和が大切になってきます。「創造」と「喜び」という2つの言葉をどのように関わらせるか。またその間にある「の」の扱い方も重要です。「の」の文字の大きさや配置によって、全体の調和が生まれます。書いた作品を並べて壁に貼り、遠くから見て比べた時に、全体のバランスが見えてきます。文字の美しさと全体の調和を意識して、さらに高みを目指してみてください。

皆さんの作品を一点一点見させていただき、改めて書の素晴らしさを感じました。美しい文字を書くことは大切なことですが、美しい文字を書くことだけにとらわれず、自分らしさを大切にして言葉に思いを込めて丁寧に書いてほしいと思います。書は、言葉に自分のイメージや思いをのせて表現することができます。これからも様々な言葉と出会う中で、言葉の意味をよく考え、書に表してみてください。そして、書くことを楽しんでほしいと思います。応募してくれたみなさんのご活躍を期待しています。

審査員 川崎市立稲田小学校 岡本 浩一